角鹿の津にして舟に乗る時に、笠朝臣金村の作る歌一首　并せて短歌

三六六番

越の海の　角鹿の浜ゆ　大舟に　真梶貫き下ろし
いさなとり　海路に出でて　あへきつつ　我が漕
ぎ行けば　ますらをの　手結が浦に　海人娘子
塩焼く煙　草枕　旅にしあれば　ひとりして
見るしるしなみ　海神の　手に巻かしたる　玉だ
すき　かけて偲ひつ　大和島根を

反歌

三六七番

越の海の　手結が浦を　旅にして　見ればともし
み　大和偲ひつ